

「芸人として売れたと思ったら、ここで自分のお金でハンバーグステーキを食べや」
これはまだ私が芸人だった頃、吉本新喜劇の故井上竜夫師匠からいただいた忘れられない一言です。「竜じい」として親しまれていた師匠は、いつも穏やかで、役づくりのために「公園」で一日中、人間観察をしていた」というエピソードが象徴するように、お芝居を深く大切にされている方でした。

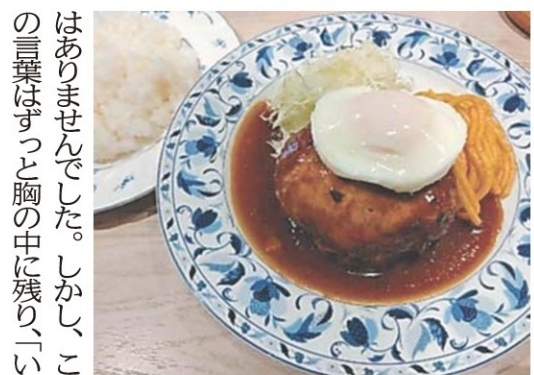
ある日、師匠から「重亭でハン

⑥⑥ 最高のハンバーグ



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

バーグステーキを買ってきて」とお金を預かり、「福岡君もなんか買っておいで」と言っていたきました。しかし、当時の私は遠慮して一番安いオムライスを選んでしまいました。楽屋に戻ると「なんや、ハンバーグちゃんか？」と聞かれ、私は「安かったのさ」と正直に返答。すると師匠は笑いながら冒頭のあの言葉をくださったのです。



つか何かを成し遂げた時に、あのハンバーグを食べに行こう」と決めていました。とはいえ「何かを成し遂げた時」という条件は曖昧で、タイミングがつかめないまま月日だけが流れていきました。

つか何かを成し遂げた時に、あのハンバーグを食べに行こう」と決めていました。とはいえ「何かを成し遂げた時」という条件は曖昧で、タイミングがつかめないまま月日だけが流れていきました。

1スで私が直接関わる学生の小学校の教員採用試験合格率が歴代最高の89・3%となり、多くの学生が夢をつかみました。また、国立教職大学院を志望していたゼミ生2人もそろって合格し、教育者としてこれ以上ない喜びを味わいました。

そして、26年を経て学生たちがそれぞれの夢をつかむ瞬間を共に喜べた今こそ、ようやく胸を張って重亭のハンバーグを味わえる時が来たのだと実感しています。

これからは、大学職員も教員もみんなが学生の未来のために本気で関わり、支え合ってきたからこそ生まれたもの。熱意のつながりが、学生の人生を動かしたのだと思います。

芸人時代に井上師匠からいただいた「売れたらハンバーグを食べなさい」という言葉は、私にとっ

て「努力が実を結んだ時に味わうご褒美」の象徴でした。

夢実現、26年越しのご褒美